

経済センサス企画会議（第6回）の結果概要

- 1 日時 平成20年1月29日（火） 15:00～17:25
- 2 場所 総務省統計局6階 特別会議室
- 3 出席者 清水座長、大戸委員、廣松委員、舟岡委員
内閣府、総務省（統計局）、財務省、文部科学省代、厚生労働省代、農林水産省代、経済産業省、国土交通省代、日本銀行、東京都、大阪府

4 議題

- (1) 平成21年経済センサスについて
- (2) 平成23年調査実施計画WGにおける検討状況について
- (3) 経済センサスの名称について
- (4) その他

5 結果概要

(1) 議題1 平成21年経済センサスについて

平成21年経済センサス試験調査の分析結果

昨年9月に実施した試験調査の分析結果について、総務省統計局から調査票の回収状況、回収された調査票の記入状況及び調査客体や調査員からのアンケートなどの観点から報告があり、意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。

《主な意見》

- ・本社において傘下の支所情報を的確に把握するという観点から、試験調査結果、企業のホームページ情報、平成18年事業所・企業統計調査結果の3つの情報を利用して更なる検証を行い、本調査に向けて検討すべき。

平成21年調査及び第2次試験調査関連

平成21年調査及び第2次試験調査の概要について、総務省統計局から昨年実施した試験調査との変更点を中心に説明があり、意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。

《主な意見》

- ・調査票「事業所の事業の種類・業態」欄の「主な事業の内容」について、総務や財務・経理など管理事務を行う本社が正しく記入できるよう調査票に注記なり説明を入れるべき。

(2) 議題2 平成23年調査実施計画WGにおける検討状況について

前回の企画会議において指摘された事項に関して、平成23年調査実施計画WG（以下「23WG」という。）の検討結果を事務局及び廣松23WG座長から報告し、意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。

《主な意見》

- ・経済センサスは、産業統計を集約したものであり、産業により定義概念が異なることのないようにすべき。
- ・従業者数の把握については、直近営業日で捉えるのか。例えば、サービス業は平日と土日で大きく変わるではないか。
- ・初めての調査であり、まずは“実施すること”に重点を置いたほうが良いのではないか。全ての業種について、細分類レベルで捉えることがどこまでできるのか。
「経済センサスの枠組みについて」では、可能な限り詳細に把握するとされており、23WGにおいても、調査票の設計等で工夫する方向で引き続き検討を進める。

(3) 議題3 経済センサスの名称について

経済センサスの調査名等について、意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。

なお、意見の集約は、事務局にて整理し、次回の会議において取りまとめを行う。

《主な意見》

- ・一般的に「センサス」は調査を指すので、統計名にすると異論が出る。
- ・調査名は、調査客体にとってわかりやすいものとするのが重要。長すぎるとわかりづらい。
- ・「センサス」という名称は、一般に知れ渡っていない。試験調査においては、調査客体だけでなく、調査員からも問い合わせが寄せられた。
- ・21年調査と23年調査は一体であり、同じ名称とするか、同じ名称を冠するようにすべき。
- ・名称の検討に当たっては、国際比較の対象になるという観点も必要ではないか。

(4) 次回(第7回)企画会議は、2月29日（金）に開催予定。

（文責…総務省政策統括官（統計基準担当）付統計審査官室）